

重力加速度測定実験(1年普通科・国際理学科)

記録タイマーを用いた古典的な方法で、重力下加速度の大きさを測定した。ものを落下させると一定の割合で速度が増加するというのを頭では分かっているつもりでも、実験をすることで実感をもって理解することができた。データ処理はプリントベースで行ったが、希望者が Microsoft 365 の Excel を使ってデータ処理できるように、課題を配信した。手でデータ処理するのと計算機を用いてデータ処理するメリットとデメリットを考えることができた。

